

新漁業管理制度推進情報提供事業 平成13年度浅海定線調査（陸奥湾）

（要 約）

今井美代子・長崎 勝康・木村 博聲・三津谷 正・佐々木祐子

調査船なつどまり（濱田 勝雄・長津 司・吹越 弘光・逢坂 健幸・本堂 洋一）

この調査は、陸奥湾の海況の特徴や経年変動などを把握し、海況予報のための基礎資料を得ることを目的として実施しているものである。本年度は、継続30年目の調査年次であった。

調 査 方 法

1 調 査 船 なつどまり（青森県水産増殖センター調査船、24.0t、770ps、16.5ノット）

2 調 査 点 湾内St.1～6の6点、湾口部St.A、Bの2点、計8定点。（図1）

3 調査方法及び項目

調査方法は、平成12年度「資源評価調査事業」沖合海域海洋観測及び資源管理体制強化実施推進事業に関わる海洋観測調査指針（東北ブロック関係、平成12年6月、独立行政法人東北区水産研究所）に準拠した。

調査項目は以下のとおり。

① 気象、海象

天気、雲量、気温、気圧、風向、風速、波浪

② 水色、透明度

③ 水温、塩分

0 m、5 m、10m以深は底層（底上2 m）まで10m間隔

④ 溶存酸素

St.1～6の20m層、底層及びSt.2と4の5m層

4 調 査 回 数

毎月1回（1月から12月の計12回。但し、平成13年は2月欠測のため11回）

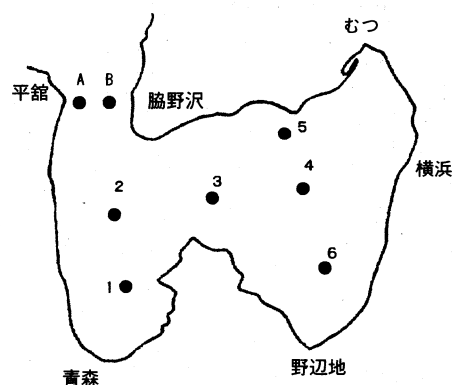


図1 調査地点

調 査 結 果

本調査結果からみた、平成13年における陸奥湾の海況特徴を以下に示す。

なお、平年比の階級表現に用いている平年値は1972～2000年の過去観測値の平均値である。

平成13年の海況の特徴

1 透明度の最低値はSt. 2 の 3 月、St. 4 の 11 月、St. 5 の 11 月の 9.0m で、最高値は St. 4 の 5 月の 19.0m であった。

2 水温の各調査点ごとの年間最低値は、0 m と 20m 層では全調査点で 3 月に、底層では St. 1 のみ 4 月に、他の調査点では全て 3 月にみられた。年間の最低値は各層ともすべて St. 5 の 3 月にみられ、0 m 層で 1.80℃、20m 層で 2.14℃、底層で 3.16℃ であった。

各調査点ごとの水温の最高値は、0 m と 20m 層では全調査点で 9 月に、底層では 8 月から 11 月にみられた。年間の最高値は、0 m 層では St. B の 9 月の 23.10℃、20m 層では St. B の 9 月の 21.32℃、底層では St. 5 の 8 月の 18.32℃ であった。

平年に比べると、1 月は平年並み、3 月～6 月はほぼ平年並み、7 月に平年より高めとなった後、8 月～10 月は平年よりかなり低めで推移し、11 月はやや低め、12 月はやや低め～かなり低めであった。

3 塩分の年間最低値は、0 m 層では St. 1 の 4 月の 28.74、20m 層では St. 4 の 8 月の 32.82、底層では St. 6 の 10 月の 33.19 であった。年間最高値は、0 m 層では St. A の 12 月の 33.92、20m 層では St. A の 12 月で 33.92、底層では St. A の 9 月で 34.23 であった。

平年に比べると、1 月は平年並み、3 月は底層付近で平年より低い調査点があるものの概ね平年並み、4 月は概ね平年並みからやや高め、5 月は St. 1～3 の表層付近で低め、同じく St. 1～3 の底層付近で高めの他は概ね平年並み、6 月は平年より高めとなり、7 月は低め～かなり低め、8 月はほぼ平年並み、9 月は 20m 層以浅は低め～かなり低め、30m 層以深ではやや高め～かなり高め、10 月は平年並み～やや高め、11、12 月はほぼ平年並みであった。

4 溶存酸素量は、1 月は平成 12 年 12 月と同程度、3 月は 1 月より 1 mg/l 程度増加、4 月にまず底層で減少し、この後 9 月まで全体に低下傾向を示し、10 月には横這いまたは増加し、11、12 月は上昇傾向を示した。

底層の年間の最低値は St. 6 の 9 月で 4.39mg/l (飽和度 55.4%)、この他 St. 5 でも 9 月に 4.87mg/l (飽和度 60.9%)、と低い値であったが、水産用水基準記載の「底生生物の生息のために最低限維持しなければならない底層の溶存酸素量 4.3mg/l」は満たしており、平成 13 年には貧酸素状態は発生しなかった。